

## はじめに

初めて日本語を学ぶ子どもや学習理解に悩み日本語の学習に再チャレンジする子どもたちが、1~2年で自信を持って学習できるようにするには、短時間で効率の良い指導で学習力を高める効果を上げる必要があります。この教案集はその方法を具体的に示すものです。主な指導対象は日本語を学ぶ高学年児童と中学生ですが、低学年児童にも応用できるように配慮しています。

本書の教案提示者はとよなか国際交流センターの「こども日本語教室」で日本語指導をしてきた“とよなか JSL (Japanese for School Life)”のメンバーです。“とよなか JSL”は、公益財団法人とよなか国際交流協会の勧めで2011年に子どものための日本語指導を始めたボランティアグループで、その後、豊中市教育委員会と公益財団法人とよなか国際交流協会との協働事業「子ども日本語プロジェクト」で一人でも多くの子どもたちの助けになるよう、学習力を高める指導に力を注ぐため研鑽を積んできました。

初めて指導をすることになったとき、先達の教案が拠りどころになります。私たちは次代のボランティア仲間を育てるためにも教案を確かなものにしようと、指導の中で生まれた疑問や留意点を書き残してきました。教案の素地は監修者の30年近い経験則から生まれたものですが、その指導に基づいて十数名のボランティア指導者が改良を重ねたものとなっています。その中から理解を確実にするための教材の選定への配慮、意欲を高めるための指導方法に対する配慮、定着度を見極める評価をやすくするための配慮を重視した指導案を網羅しました。

短期間の日本語指導で教科学習につなげるために、必要なことは何かという基本的な考え方を『学習力を育てる日本語指導』(田中薫著, 2015年, くろしお出版)で示してきました。同書では日本語指導と教科がどのような視点でつながるのか、学習力を向上させるためのポイントは何か、また、より有効な教科への導入方法は日本語での学習力を育てることだということを具体的に述べています。

本書では上記の考え方にに基づき、実際指導の中で大切にすべき指導重点を明確にしながら、具体的にはどういう手順で指導すればそれが達成できるかを示しています。

学校での友だちとの関係や学習の伸びに課題を持つ子どもの解決には、日本語を指導し直し、本人の学習力を高めることで解決できる場合が多いです。そのやり直しの日本語指導の手立ては、やり直しを作らないための指導の手立てでもあります。

そして、学力を高める学習力の育成方法として、下記のことを主な目標に指導しています。

- ①主語と述語の関係をしっかり把握できる指導
- ②学力が伸びにくい要素である、文のつなぎ方や時制の理解、語彙を増やすコツなどの指導
- ③授業の目標が、授業内で評価につながる指導
- ④教科との接点をカバーし、日本語で教科学習に近づきやすくする指導

私たちが提示する教案を基に、自身の指導に見える問題点を掘り出し、指導資料の提示の方法、指導の目的を達成するための子どもの導き方など、様々な角度から日本語指導を考えていただけたらと思います。本書は指導に悩みを持つ方々と共に進歩したいと望み、皆様の解決の一助となることを祈念して執筆したものです。

## 目次

課	タイトル	指導重点	分量	Page
	はじめに		1p	1
	目次		2p	2
	本書の構造		2p	4
	本書の特徴		2p	6
	カリキュラムの立て方		1p	8
	本書の読み取り方		2p	9
<b>第Ⅰ節 「初級・教案」</b>				<b>11</b>
1	文字 ひらがな	[ひらがなの読み書き]	6p	12
2	名詞文	[指示する言葉 名詞語彙]	8p	18
3	漢字の導入	[漢字の字画と筆順 象形文字]	3p	26
4	形容詞語彙から1語文へ	[形容詞語彙 漢字 否定形]	6p	29
5	形容詞文・疑問詞文 「どう・どんな」	[様態を尋ねる疑問文の構造]	3p	35
6	形容詞文 「花子の家・太郎の家」	[形容詞を使った長い文]	7p	38
7	位置関係	[位置表現]	9p	45
8	初期の動詞文型	[動詞・助詞の理解]	13p	54
9	時を表す言葉	[時の語彙と概念]	7p	67
10	用言・体言比較と形容動詞	[形容動詞の特徴]	4p	74
11	用言のつながり(形容詞・形容動詞)	[形容詞文・形容動詞文のつながり]	7p	78
12	用言のつながり(動詞+動詞)	[動詞文のつながり]	6p	85
13	述語の修飾(副詞等)	[程度の表現 量の表現 頻度の表現]	7p	91
<b>第Ⅱ節 「初級学習の確認とやり直し」 「教科学習につなぐ」 教案</b>				<b>99</b>
14	文字 カタカナ 「やり直し」	[カタカナの覚え直し]	7p	100
15	ことばのきまりの確かめ 「やり直し」	[助詞と動詞のつながり]	3p	107
16	初級文法と読解のテスト 「やり直し」	[主語・述語と順序の読み取り]	5p	110
17	助数詞からたし算・ひき算へ	[算数の文章問題が解けない子への導入]	6p	115
18	助数詞からかけ算・わり算へ	[算数の文章問題が解けない子への導入]	5p	121
19	算数につなぐ時間計算	[多様な時に関する表現に慣れる]	3p	126
20	比較文型からつなぐ地理学習	[比較用法から地理学習につなぐ]	7p	129
★	教科学習につなげる教案の作成法 ★	[日本語と知識の基本から応用へ]	4p	136

<b>第Ⅲ節 「中級・教案」</b>		141
21 動詞常体の過去形	[常体・過去形の規則性の理解]	3p 142
22 感情と理由の表現	[気持ちや理由を表現する力]	4p 145
23 可能表現と熟語	[「サ変動詞・動詞の可能形」を含む可能表現]	7p 149
24 瞬間動詞（結果動詞）と継続動詞（動作動詞）	[時制に関わる動詞の性質の理解]	3p 156
25 何をしているところですか	[瞬間的な時間表現の練習]	4p 159
26 自動詞と他動詞	[自他の特性の理解 教科書の読み取り]	7p 163
27 「どんな人ですか 変なおじさん」	[他動詞での修飾用法]	3p 170
28 「泥棒が入ったおじさんの部屋」	[自他動詞を使った状態表現の練習]	4p 173
29 「変なおじさんのミステリアスな部屋」	[自他動詞・複合動詞を使った状態表現]	7p 177
30 授受表現	[あげる もらう くれる]	5p 184
31 受身・使役・使役受身の表現	[れる・られる せる・させる される・させられる]	5p 189
32 敬語	[敬語が適切に使える]	7p 194
<b>第Ⅳ節 「読解・作文力を伸ばす・教案」</b>		201
33 作文「4コマ漫画」	[つなぎの言葉 指示語 省略]	9p 202
34 初級作文「駅風景」	[主語・述語と位置関係で伝える客観的な叙述]	5p 211
35 中級作文「駅風景・交差点風景」	[文の組み立て]	3p 216
36 修飾用法「滝川公園」	[修飾節の適切な使用]	5p 219
37 時制と文末「雨降り」	[時制の一致と文末表現]	6p 224
38 読解「銅と鉄」	[つなぎの言葉で捉える文の流れ]	6p 230
39 読解「水の変態」	[理科的な説明文を読み解く]	7p 236
<b>第Ⅴ節 「熟語力を伸ばす・教案」</b>		243
★ 漢字トランプゲームとは ★	[カードの使い方]	6p 244
40 初級及び低学年 漢字トランプゲーム	[漢字の読みと組み合わせ]	10p 250
41 形容詞・動詞熟語トランプゲーム	[熟語への導入]	11p 260
とよなか JSL の「日本語力簡易診断基準表」		3p 271
とよなか JSL の「カリキュラム・到達度評価」(中学生・小学校高学年)		7p 275
★ とよなか国際交流協会から一言 ★		3p 282
★ 子どもの日本語教育支援に関わるボランティアの経験と気づき ★		3P 285
参考文献		1p 288
あとがき		1p 289

# 本書の読み取り方

## 第4課 形容詞語彙から1語文へ

指導重点 [形容詞語彙 漢字 否定形]



本課における題材設定の理由  
題材の取り扱い方を示します。

本単元は文字を覚えたら言葉と文にすぐに入れる単元の一つです。日本語学習のやり直しの子どもにも、ここからスタートするとどのようなやり直しが必要か理解させやすい単元です。知っている言葉と知らない言葉を自ら理解でき、覚えるのに必要な時間を知り、覚え方を身につけられるからです。

まず、主体的に授業に臨む態度をしっかりと身につけさせることが大切です。形容詞語彙を50個覚えるという高い目標を設定することで、集中して覚える力を身につけさせるとともに、家庭学習の方法を教えることで復習する習慣をつけさせることを目指します。学習語彙の必要性を理解させるのもここから始めます。

### ● 本単元の板書

板書がわかりやすければ理解が早くなります。最初に示す板書や写真は課のイメージです。

ひらがな 形容詞

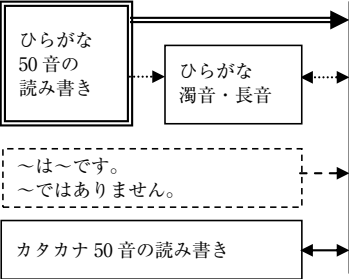
1A ながい	6A たかい	11A あかるい	16A つよい
1B みじかい	6B やすい	11B くらい	16B よわい
2A おおきい	7A どおい	12A あたらしい	17A うれしい
2B ちいさい	7B ちかい	12B ふるい	17B かなしい
3A おおい	8A ほそい	13A しろい	18A やさしい
3B すくない	8B ふとい	13B くらい	18B こわい
4A おもい	9A さむい	14A ふかい	19A はやい
4B かるい	9B あつい	14B あさい	19B おそい
5A たかい	10A ひろい	15A あたたかい	20A あつい
5B ひくい	10B せまい	15B すずしい	20B うすい

- ① 最初は何も書かないで、耳と口で覚えさせよう。
- ② 5Bまで覚えたら、ノートに記してから、答え合わせみたいに10語ずつ、ひらがなを板書しよう。
- ③ 漢字も同様に覚えてから、ノート記入の後に板書し確認しよう。

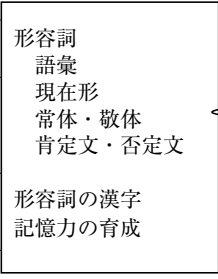
ボイス君、は授業の進め方を  
わかりやすくします。

二重実線枠は本課学習前にぜひとも必要。実線枠は事前学習がある方が望ましい。点線枠は未習得でも大丈夫。

### ● 必要な事前指導



### ● 本課



### ● 重点評価

第2次と第3次は指導順序を入れ替えてもかまわないよ。

	強化 学習力	聞く	話す	読む	書く
第1次	集中力				
第3次	聴覚記憶				
第2次	集中力				
漢字	視覚記憶				

巻末の到達度評価に対応。  
重点指導は着色部分です。

この課は、かなを完全に覚え込んでいなくても、50音がだいたい書けるなら、教えられますよ。  
発音では、濁音は「が・じ・ず」しか使っていないし、長音は「おお・とお・ちい・しい」があるのでここで復習すればいいですね。  
漢字指導には、カタカナを覚えていれば「ン・シ・イ・ウ・メ・タ・ヌ・ム」が使えます。  
覚えることに慣れていない子どもには、まだカタカナや漢字は無理強いする必要はありません。

“ご意見番”は見落としがちなこと、ここを疎かにすると後に響くこと、従来の指導書との違いなどを話します。

30 第1節 「初級・教案」

第1次

指導目標

- ① 授業時間内に集中すれば覚える力が身につけられることを知らせる。
- ② 日本語での記憶力・筆記力を養う。
- ③ 家庭学習の方法を教え、復習する習慣をつける。

評価の観点

- ① 時間内に対になる形容詞をどれだけたくさん覚えられたか。
- ② 覚えた形容詞を正しく書くことができるか。

本時の準備物 ①資料 4-1 形容詞語彙図 ②指示棒

以下のセクションについて、学習内容の評価の基準となる事柄を示しています。ここができれば次へ進めます。

	学習内容		指導上の留意点
	子どもの活動	指導者の活動	
導入	形容詞について理解する。		拡大した形容詞プリントを黒板に貼っておく。
	形容詞について理解する。	＊「大きい・小さい」など、実物や手を使って、状態を表す言葉だと知らせる。 ＊大きい・小さいの言葉の末尾に㊦がつくことに気づかせ、形容詞について理解を促す。	
展開①	リズムよくはっきりと声を出して覚える。		形容詞語彙 50 個 (25 対) の形容詞を覚える必要があると意識させる。 発音も注意する。 テンポよく行う。 この作業を行うことで、子どもの中に「覚える」という意識が芽生えるようにする。 できたらしっかり褒める。 長音の書き方に留意する。 長音の習得が不十分だと気づいた場合、手拍子などで長さを書き方を確認させる。 特定のひらがなで発音と記述が一致しない場合は、発音聴音指導を補充する。 参照 田中薫 (2015) 『学習力を育てる日本語指導』くろしお出版 78～82ページ
	指示棒で指された形容詞を読みながら、その形容詞を覚えるように努める。	＊形容詞一対を指示棒で交互に示しながら、早い口調でリズムよく繰り返し、これを子どもと一緒に読むように促す。 ＊しばらくして次の形容詞の対に移る。 ＊次の形容詞を読んでいる途中で、突如前の形容詞の対に戻り、それまで読んでいた形容詞を言わせる。 ＊5 対 (10 個) まで覚えたところで、ランダムに形容詞を指し、答えさせる。	
	ノート (プリント) に記述し、間違いを正す。		
	ノート (プリント) に記述し、間違いを正す。	＊5 対 (10 個) が答えられたらノート (プリント) にひらがなで書かせる。 ＊ノートに書いた言葉を言わせ、それを板書しながら間違いがないことを確認させる。 ＊長音の特徴の理解を確認する。 ＊発音と記述の不一致があれば気づかせる。 ＊引き続き10個単位で教える。	
まとめ	家庭での勉強方法を知る。	＊次回のテストの内容 (ひらがなでの形容詞語彙テスト) を知らせる。	ノートの文字部分を隠して覚えたり確かめたりする家庭学習の方法を知らせる。

時間内にできなければ次時の始めに復習しましょう。

本時の指導方法上の最重要事項です。

指導の要点

- 日本語に慣れないからと不自然にゆっくり発音すると、聞く力はずきにくいものです。音があいまいにならない程度のできるだけ速い速度で、リズム良く何度も繰り返して、口と耳で日本語の音に慣れながら、自然に覚える力を引き出しましょう。  
子どもが書くときも、よく見ていて、なぜ間違ったか見抜いてください。
- 短時間で集中して覚える作業を通して「やればできる」という自信もつけさせ、今後の日本語学習に前向きに取り組めるようにします。